

課題遂行型教材「JFS 読解活動集」の開発と評価

羽吹幸・上原由美子・長坂水晶

[キーワード] JF 日本語教育スタンダード準拠教材、課題遂行、レアリア素材、目標 Can-do、
「内省」と「対話」のツール

[要 旨]

本稿では、「みんなの教材サイト」で公開している「JFS 読解活動集」の制作方針と概要、制作の流れについて報告し、その特徴と評価について考察する。本教材は、JF 日本語教育スタンダード準拠教材として、現実社会での課題遂行のための読みをレアリアまたはそれに近い素材を用いて行うものであり、読解タスク、異文化理解・相互理解のための発展活動、評価までの一連の活動の流れを、教師向け・学習者向けのワークシートとして提供している。各教材には目標 Can-do のレベルが示され、目標 Can-do のカテゴリーとトピック、テキストタイプ、文章の長さや難易度などの点から、A1から B1レベルまでの特徴が反映されている。ユーザーからは制作方針にも合致した肯定的なフィードバックが得られている。最後に、執筆者、ピア執筆者、編集担当者による制作体制によって、JFS が「内省」と「対話」のためのツールとして機能した点についても述べる。

1. はじめに

「JFS 読解活動集」は、現実社会で必要となるような読みを学習活動としている読解教材である。JF 日本語教育スタンダード（以下、JFS）に準拠した読解教材として、2015年12月から2020年6月にわたって「みんなの教材サイト (<https://minnanokyozei.jp/>)」（以下、教材サイト）に定期的に1本ずつ公開し、現在、A1レベル14本、A2レベル12本、B1レベル12本の読解教材が掲載されている。読む素材は学習者用にやさしく書き直したものではなく、レアリアまたはレアリアに近い素材で、それらを使って、Can-do で示された目標に合わせた課題達成のための読みの活動を行う。

本稿では「JFS 読解活動集」が開発された背景と教材の概要および制作の流れについて報告し、教材の特徴とアクセスログおよびユーザーコメントによる評価について述べる。

2. 開発の背景

「JFS 読解活動集」の開発背景には、JFS の公開と教材サイトの運営がある。JFS は、2010年に国際交流基金が発表したもので、「グローバル社会で重要なのは人間同士の相互理解である」という理念のもと、日本語教育の実践を支援するためのツールとして開発された（国際交流基金 2017）⁽¹⁾。JFS は教育実践の枠組みとして利用するもので、実践が振り返りやすくなり

(内省)、教師同士の話し合いや情報交換がしやすくなる(対話)ことを目指した、「[内省]と[対話]のツール」(国際交流基金 2009:21)である。また、学習の方法として、文法や語彙といった言語知識を切り離して学ぶのではなく、学習者が自他の文化を理解し尊重し、現実社会で必要となる具体的な課題に取り組むことを通じて、コミュニケーション力を伸ばすことを提案している。そのような学習デザインが具体化された JFS 準拠の教材として、コースブック『まるごと 日本のことばと文化』の市販が2013年から始まった。

「みんなの教材サイト」は、国際交流基金日本語国際センターが2002年から運営する教師支援サイトである。特徴は、世界中の教師がユーザー登録することで、日本語教育用に作られた素材を著作権許諾の手続きをせず無料で自由に利用できることである⁽²⁾。現在、教室活動・読解・イラスト・文法解説・ユーザーの投稿による素材など、合計で約12,000点が検索・利用できる。サイトの公開以来、さまざまな現場で教える教師たちのニーズやリクエストに応える素材を提供することを基本的な方針にしている(島田ほか 2003、赤澤ほか 2009、伊藤ほか 2019)。特に、楽しい授業活動、リアルな日本を伝える素材、コミュニケーション力を育てる授業につながる素材などを掲載してきた。そして、ユーザーからは言語学習の目標の変化や教授法に対する考え方の変化に応じて、新たな物が常に求められてきた。

こうした状況を背景に、JFS が提案する課題遂行と異文化理解を重視し熟達度のレベル基準が明示された新たな JFS 準拠教材として「JFS 読解活動集」を開発し、教材サイトで無料提供することとなった。

3. 教材の方針と概要

教材の開発は次のような方針のもとに行われた。まず、JFS を教材開発のツールとし、レベルやコミュニケーションに関する考え方は JFS に基づいた。そして、現実社会でどのような課題の遂行のために読むのかを Can-do による目標で明示し、教師と学習者が目標を簡単に共有できるようにする。Can-do は、海外の学習者にとって現実的である、あるいは将来遭遇し得るものとする。読解用の素材はできる限りレアリアを用いるようにし、本物の魅力を活かし、再編集する必要がない素材とする。そして、異文化理解や相互理解のための活動を重視し、学習者同士が理解し合う楽しい活動を

みんなの教材 サイト

JFS 読解活動集 (B1)

11. AI の可能性について書かれた雑誌記事を読む

■目標 Can-do
AI (人工知能) の可能性について書かれた雑誌記事を読んで、筆者の重要な考えと、その考えを裏付ける事例の説明を的確に理解することができる。(MY Can-do)

<元にした Can-do>
・ 主張のはっきりした論説的テキストの主要な結論を把握できる。(CEFR B1.2 063)
Can identify the main conclusions in clearly signalled argumentative texts. (CEFR B1.2 063)

■活動の流れ

【1】準備:
私たちの日常生活の中で AI (人工知能) がどのように使われているかをふり返し、AI が私たちの生活を楽にするためにどのように役立っているかを自分の言葉で表せるようにします。

【2】読む:
AI ができること、できないことをまとめた雑誌の記事を読んで、私たちの仕事には AI に任せられるものと、人間が自分でしなければならない仕事があることを知り、これから AI と自分たちがどのように関わり合っていけばいいかを考えさせます。

【3】発展:
もう一度自分の生活に立ち戻り、AI が自分たちの生活にどのように関わっているのかをふり返し、日本語でまとめます。そして、これからの AI について考えます。

図1 「目標 Can-do」と「活動の流れ」

提案する。サイト上での提供という特性から、プリントアウトしてそのまま使えるPDF版と、現場に合わせてアレンジすることができるWord版を提供することとし、教師へのヒントや解答が掲載された「教師用」(PDF版とWord版)と、そのままワークシートとして使える「学習者用」(ルビ無とルビ有の2種類。Word版のみ)の計4種類のダウンロードファイルを提供することとした。

教材の構成は、A1~B1で少しずつ異なるが、教師向け解説などが記載された教師用ファイルの内容について、B1シリーズを中心に説明する。まず、冒頭に「目標 Can-do」を提示する。JF Can-do や CEFR Can-do⁽³⁾ をもとに MY Can-do⁽⁴⁾ を作った場合は、元にした Can-do も教材に併記する。次に、「活動の流れ」として、【1】準備、【2】読む、【3】発展、【4】自己評価のアウトラインを提示し、それぞれのねらいを記す(図1)。

【1】準備では、イラストやデータを使って、これから読む読解素材のテーマについてブレインストーミングを行う(図2)。これから読む素材のテーマについて前知識をインプットしたり、そのテーマについて自分自身のことを振り返ったり、自分の国や他の国のことなどについて考え、時には母語を使ってもよいとしてクラスメートと意見交換をしたりする。読解素材に出てくるキーワードとなる語彙や漢字を、ここで事前にインプットする場合もある。ここでの活動は、読む前に背景知識を活性化したり、動機づけたりできるように工夫している。

【2】読むでは、レアリアやそれに近い読解素材を、辞書を引かずにまずは自力で読んでみることに挑戦する(図3)。読解素材に付随するタスクは、A1では部分的なごく基本的な情報が理解できたかどうかの

■教材

【1】準備

みなさんは、AI (Artificial Intelligence : 人工知能、以下 AI と表記します) を知っていますか。私たちの毎日の生活のいろいろな場面で、AI が使われています。

(1) イラストを見て、次の質問に答えてください。

- それぞれの場面でどのような AI が使われていますか。日本語を使って書いてください (個人作業)。
- グループ (3人程度) になって、あなたが書き出したことを話し合ってください。
- 自分が知らない言葉や表現があったら、グループ内で教え合ってください。

図2 「準備」

【2】読む:

次の文を読んで下の質問に答えてください。

*辞書を引かずに、まず自力で読んでみましょう。

?

AI(人工知能)を使った製品が多くなっています。私たちの働きを変え、日々の生活を便利にしてくれて、AIはどのような可能性を持っているのでしょうか。AIが今、何ができて、何ができないのか、整理してみましょう。

AIは、大量のデータを記憶することやそのデータを分析してルールやパターンを見つけ出すこと、内容と方法が決まっている単純な作業を正確に実行することは得意です。一般企業事務の仕事

な2.むらめきはありません。まったくのゼロから新しいアイデアを作り出すことはできません。例えば、AIに介護のために役立つ製品を作

(1)

- 上の文を読んで、下の①~⑤について、人工知能にできることは、(○)、できないことは、(×)を書き入れてください。
- グループで答えを確認して、不明な点があったら話し合ってください。

① () まったくのゼロから新しいアイデアを考え出すこと

② () 大量のデータを分析して、ルールやパターンを見つけ出すこと

③ () 大量のデータを記憶すること

④ () 不安や心配、迷いなどの人間の気持ちを読むこと

先生へ:

- 人工知能ができること、できないことを、抽象的な言い方でどう言えばいいかを確認することが目的
- 【1】準備の活動で具体的に思い出したこと、確認してきたこと、覚えてきたことを整理して共通している部分を日本語でどのように言えばいいかを、まず本文を読んで知り、このタスクを通して整理し直す作業

【解答】

① (×) ② (○) ③ (○) ④ (×) ⑤ (○)

図3 「読む」活動とタスク

内容確認が中心であるが、レベルが上がるにつれて、書かれている内容を推測したり、テキストのどの部分にどのような内容が書かれているか考えてみたり、自分の母語で書かれたテキストと書き方の似ている点や異なる点があるかどうかを発見したりといったストラテジー的なタスクを行う。B1レベルになると、このレベルで求められる言い換え・要約といったタスクや、読解素材からの情報と自分がすでに持っている知識を複合的に照合して読むタスクなども体験する。こういったタスクのねらいや留意点、解答例などは青字の「先生へ」に記されている。

【3】発展では、異文化理解や相互理解に発展させる活動を行う（図4）。例えば、メニューを素材に扱ったA1ではメニューを使った注文の会話を、A2ではメニューやレストランのシステムについて、自国と比べてみたり日本人の習慣や考え方などについて考えたりするタスクを行う。メールやブログ、ユーザーレビューなどを読む教材では、読んだ素材を参考に、自身でも書いてみるタスクを行う。

【3】発展
ペアやグループになって話し合ってみましょう。
・あなたは、日常生活の中で人工知能を使った機械や器具を使っていますか。
・あなたの学校や会社では、人工知能を使った機械や器具を使っていますか。
・あなたは将来、どんな機能を持つAIがほしいと思いますか。その理由も話してください。

【4】自己評価:
人工知能の可能性について書かれた雑誌記事を読んで、筆者の考えと、その考えを裏付ける事例の説明を的確に理解することができる。

😊 まだむずかしい 😊 できた 😊 じゅうぶんできた

★もっと読むなら
松尾登 (2015) 『人工知能は人間を超えられるか ディープラーニングの先にあるもの』角川 EPUB 選書

図4 「発展」と「自己評価」

【4】自己評価では、冒頭に提示した目標 Can-do が達成できたかどうか3段階の自己評価を行う。最後に、「■ほかに使える素材」や「★もっと読むなら」で、関連して活動に使える素材や参考文献、検索方法などを紹介している。

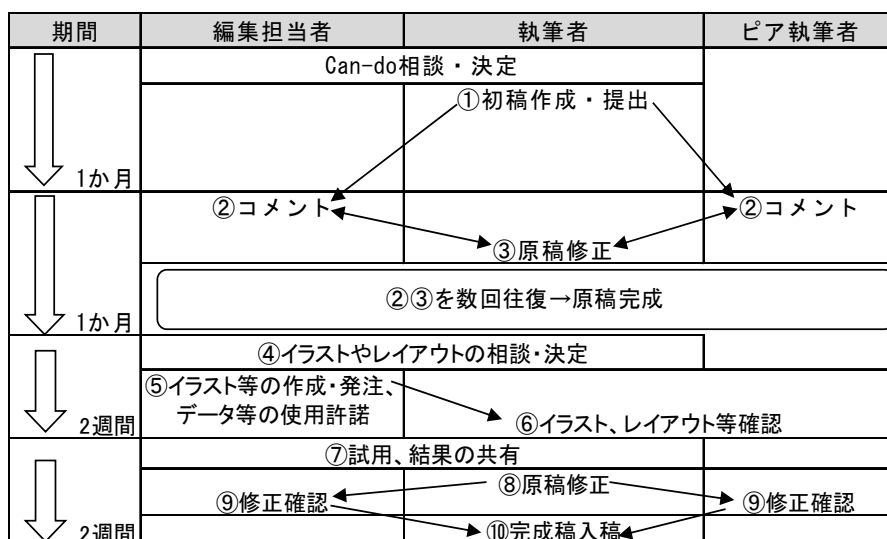
4. 制作の流れ

教材の制作にあたっては、編集担当者数名と、各教材につき執筆者1名、ピア執筆者⁽⁵⁾1~2名が協力して行った⁽⁶⁾。以下、制作の流れとおおよその期間、編集担当者、執筆者、ピア執筆者それぞれの作業を表1に示した上で説明する。

4.1 目標 Can-do の選択と決定

教材制作はA1レベルから順に進めていった。各レベルの教材制作を開始するにあたって、まず、JFSのコミュニケーション言語活動のカテゴリー「受容」のうち、書きことばに相当するCan-doの中から、編集担当者と執筆者が相談し、作成する活動のCan-doを選択した。Can-doの選択にあたっては、「3. 教材の方針と概要」で述べたように、海外の学習者にとって現実的な、あるいは将来遭遇する可能性のあるタスクを作れるかという点を重視した。また、シリーズ内で、Can-doのカテゴリーとトピック⁽⁷⁾が偏らないようバランスを考慮した。A2レベルの教材の制作時からは、カテゴリーとトピックのバランスに加え、A Core Inventory for

表1 制作の流れ



General English⁽⁸⁾ (以下、Core Inventory) のテキストタイプ⁽⁹⁾ (North B., Ortega A. & Sheehan S. 2015: 36) を参考に、各シリーズ中のテキストタイプのバランスも考慮しながら、目標 Can-do を選択した。

4.2 原稿作成

執筆者は、自分が作成する教材の目標 Can-do が決まったら、タスクおよび素材を考え、「教師用」原稿の初稿を作成した。作成に際しての留意点は、主に以下の2点である。

①リアルなタスクであること (オーセンティシティの重視)。具体的には以下の点を考慮する。

- ・読む場面：実際にある場面か。
- ・読む目的：実際の読む目的に沿っているか。(例えば、人がメニューを読む目的は何か)
- ・読み方：実際の読み方に沿っているか。(例えば、注文するためにメニューを読むとき、人はどんな順番で、どのように情報を取りながら読んでいくのか)
- ・素材：レアリアまたはレアリアに近い素材か。(例えば、レアリアに近い素材を作成する場合は、テキストを現実には見かけないような表現で書いたりしていないか、学習者には難しいからという理由で、不自然なルビを振ったりしていないか)

以上のように、さまざまな観点からリアルであることを重視し、あくまでも学習者は目標 Can-do を達成すればよく、素材すべてを理解する必要はない教材として作成した。また、必要ない情報を読み飛ばすことができることも読む能力の一環であると考えた。

②場面、状況、役割などの文脈を明確にすること。

指示文は、教材を使用する教師が、学習者がわかる言語に訳すことを前提にしているが、できるだけ易しい日本語で書くようにした。また、写真やイラストを活用し、ことばに頼らずと

も場面や状況等のイメージが伝わるようにした。

加えて、JFS が推奨する課題遂行型の教室活動について理解を深め、多様な使い方に応えられるよう、原稿には学習の流れや活動の意図などの教師向け情報を明示することにした。

4.3 ピア執筆者・編集担当者によるコメントおよび修正

執筆者による初稿ができたら、ピア執筆者と編集担当者がコメントを入れ、意見交換しながら執筆者が修正をする、というプロセスを何度か繰り返した。執筆者とピア執筆者は、教材ごとに持ち回りで担当した。すなわち、ある教材のピア執筆者は、他の原稿では執筆者となる。それにより、ピア執筆者は、執筆者としての視点も持ちながら、客観的な観点からもコメントをすることが可能となった。

編集担当者およびピア執筆者からのコメントや議論に基づき、執筆者が修正を繰り返し、原稿の内容面がほぼ完成した。

4.4 素材作成

原稿が完成に近づいた段階で並行して、写真やイラスト、全体のレイアウトなど、ビジュアル面の素材作成を開始した。課題遂行を目的とする教材において、写真やイラストは、単なるイメージや装飾ではなく、タスクの場面、状況、役割などの文脈の設定に重要な役割を果たす。執筆者が自分でレアリアを調達したり、レアリアに近いものを作成したりした場合もあるが、その範囲を超えるものについては、意図や条件を編集担当者と相談し、写真やイラストを業者に発注した。いずれの場合も、可能な限りレアリアを使用するようにし、以下のような方法で調達した。

- ・街で見かけたレアリアの所有者に使用許可を得る（例：店の看板、メニュー）
- ・周りの人が実際に持っているもの、使っているものを提供してもらう（例：実際にもらった年賀状、同僚が書いた伝言メモ）
- ・関係者に依頼して実際の写真を撮ってもらう（例：レストランの内部、工作中的のレストランの従業員、家族の生活、家にある電化製品）

著作権等の問題でレアリアが使用できない場合は、できるだけレアリアに近いものを以下の方法で作成した。

- ・国際交流基金が所有している写真やイラスト、著作権フリーの素材、自作のイラスト、自分で撮った写真等を使って、執筆者または編集担当者が作成する（例：ブログ記事、観光パンフレット、ポスター）

教材全体のレイアウトについては、見やすさ、わかりやすさ等に留意して、編集担当者が執筆者と相談しながら作成した。

以上で、原稿のビジュアル面が仕上がり、まず、活動のねらいや解答等をすべて含んだ「教師用」原稿を執筆者が完成させた。その後、教師向けの説明等を除いた「学習者用」原稿を編集担当者が作成した。

4.5 教材の試用および修正

原稿がいったん完成した後は、国際交流基金日本語国際センターに滞在する日本語非母語話者教師（以下、研修参加者⁽¹⁰⁾）に実際に取り組んでもらった。研修参加者たちは、日本語や日本語教授法などの研修を受けるために来日している日本語教師であるが、自分自身も長く学習してきた日本語学習者でもある。まずは、学習者の立場でこの教材のタスクに取り組んでもらい、終了後に、学習者および教師の両方の観点からフィードバックをもらった。

学習者としての観点からのフィードバックでは、字の大きさや色、フォント、配置などの見やすさ、指示文や選択肢のわかりにくさ、答えにくさなどの指摘を得た。教師の視点からのフィードバックとしては、Can-do やタスクの難易度はどうか、教材の内容が自分の学習者の興味に合致しているか、タスクや素材が自分の学習者にとって役に立つものであると思うかなどについての意見や感想を得た。また、例えばパッケージ旅行のパンフレットを読むタスクにおいて、パッケージ旅行自体に馴染みがなく、日本語は読めていても内容が理解できないといった文化的背景の違いに起因する難しさの指摘など、多様な文化を持つ研修参加者ならではの貴重な意見も得られた。

研修参加者から得た、以上のようなフィードバックや示唆を執筆者と編集担当者が共有し、必要な修正を行い、最後にピア執筆者も参加の上、最終チェックをして教材を完成した。完成した教材は、1本ずつ定期的に教材サイトに公開した。

5. 「JFS 読解活動集」の特徴

完成した「JFS 読解活動集」の特徴について、目標 Can-do のカテゴリーとトピック、テキストタイプ、文章の長さや難易度の点から述べる。

5.1 目標 Can-do のカテゴリーとトピック

表2に示すのは、「受容（書きことば）」の各カテゴリーに分類される Can-do の総数と、それぞれのレベルの教材で採用した目標 Can-do の数である。

各カテゴリーの Can-do の数を見てみると、部分的な情報を検索する「必要な情報を探し出す」読みは、A1がもっとも多く、レベルが上がるにつれて減っている。一方、「情報や要点を読み取る」といった全体的な読みは、レベルが上がるにつれて増えている。「JFS 読解活動集」もこれら Can-do を基本として制作されているため、読む活動のタスクタイプとしては同じ傾

向で作られていることがわかる。

表2 各カテゴリーの Can-do 総数と教材で目標 Can-do として採用した数

カテゴリー	A1		A2		B1	
	Can-do	読解素材	Can-do	読解素材	Can-do	読解素材
読むこと全般	1	-	2	-	1	-
手紙やメールを読む	5	4	6	2	6	2
必要な情報を探し出す	12	7	11	5	7	2
情報や要点を読み取る	5	4	10	4	12	8
説明を読む	2	1	3	1	2	1

また、各読解素材のトピックの分布は表3のとおりである。数字は、各レベル中の教材の数を表す。リアルな日本を伝えるのにふさわしい幅広いトピックが制作されたことがわかる。また、「10. 自然と環境」「14. 社会」「15. 科学技術」など、社会的で抽象的な話題のトピックが B1 シリーズから扱われている点もレベルの特徴を反映している。

表3 JFS トピックに基づく読解素材の分布

JFS トピック	A1	A2	B1
1. 自分と家族	-	1	-
2. 住まいと住環境	-	-	1
3. 自由時間と娯楽	3	2	2
4. 生活と人生	-	-	2
5. 仕事と職業	2	1	2
6. 旅行と交通	3	2	-
7. 健康	-	1	-
8. 買い物	2	1	1
9. 食生活	2	2	-
10. 自然と環境	-	-	2
11. 人との関係	1	1	-
12. 学校と教育	-	-	-
13. 言語と文化	1	1	-
14. 社会	-	-	1
15. 科学技術	-	-	1
計	14	12	12

5.2 読解素材のテキストタイプ

表4は、A1シリーズの14点、A2シリーズと B1シリーズの各12点で扱っている読解素材のテキストタイプの分布を、Core Inventory で書きことばのテキストタイプとして提示されている Written Sources⁽⁴⁾ 上に表したものである。Core Inventory では CEFR のレベルにテキストタイプがどのようにマッピングされるか、セルの色の濃淡で示されており教授活動の参考とすることができる。ここでは、Written Sources とレベルの交わるセルに、相当する素材の数を示す。

A1シリーズでは、「1. 看板・標識」を扱っているものが5点、「19. 事実に基づく記述」と「30. ポストカードのメッセージ」を扱っているものが3点ずつで比較的多いが、A1レベルと特定されているテキストタイプはおおむね満遍なく教材化している。A2レベルになるとテキストタイプが増えるため、12点の読解素材では網羅したとは言いがたい。しかし、複数回取り上げた「13. パンフレットとチラシ」、「3. 取扱説明書」、「31. ショートメール／ツイッター」などのテキストタイプは、制作方針で挙げた「海外の学習者にとって現実的である、あるいは将来遭遇し得るタスクである」といった点において、他のテキストタイプよりは汎用性が高いと考えられる。

B1レベルでは、Aレベルと異なるBレベルらしさを確保するため、CEFR「共通参照レベル：自己評価表」(Council of Europe 2008:28)におけるB1の「読むこと」に記されているキーワード「非常によく使われる日常言語」「自分の仕事関連の言葉」「起こったこと、感情、希望が表現されている私信」や、B1のCEFR Can-doの「受容(書きことば)」に表れる「長いテキスト／テキストのさまざまな部分／別のテキスト」「主張のはっきりした」「簡単な新聞記事から重要点」といった文言を参考に、ある一定の長さのテキストを横断的・複合的に読めること、筆者の主張の理解、公的な文書における主要な情報の理解といった要素を取り入れるよう意識した。そのため、B1レベルのテキストタイプの選択においては、Aレベルでも扱った「13. パンフレットとチラシ」なども引き続き扱うものの、「20. 新聞&雑誌記事」、「21. 事実に基づく文章、記事、レポート」、「32. 文書のやりとり：非公式な文書」、「33. 私的な叙述」といったBレベルの読解に求められるテキストタイプを優先的に選択している。

表4 読解素材のテキストタイプの分布

	A1	A2	B1
Written Sources			
1 看板・標識	5	1	
2 道順			
3 取扱説明書		2	
4 危険警告			
5 規則			
6 但し書き(規定)			
7 メニュー	1	1	
8 地図、観光リーフレット&ポスター	2	1	
9 広告		1	
10 時刻表			
11 参照リスト(イエローページなど)			
12 ウェブページ、カタログ			1
13 パンフレットとチラシ		3	2
14 ガイドブック			
15 書式、請求書	1		
16 文書のやりとり：公的な文書			
17 公式文書			
18 専門的な文書(契約書など)			
19 事実に基づく記述	3	1	1
20 新聞&雑誌記事			2
21 事実に基づく文章、記事、レポート			3
22 長い複雑な文章、レポート等			
23 高度に専門的な出典			
24 議論的な文章			
25 批評、論説、時事解説			
26 物語		1	
27 逸話、ジョーク		1	
28 フィクション			
29 文学			
30 ポストカードのメッセージ	3		
31 ショートメール／ツイッター	1	2	
32 文書のやりとり：非公式な文書			2
33 私的な叙述		1	3

5.3 読解素材の長さや難易度

読解活動に用いる文章の長さや難易度を表したものが表5~7である。参考として、該当するCore InventoryのWritten Sourcesも共に表示した。

文章の長さは、1つの教材に複数の読解素材がある場合、個々の素材の文字数を内訳欄に、1つの教材全体の文字数を合計欄に記した。難易度は、「日本語文章難易度判別システムjReadability (<https://jreadability.net/>)⁽¹²⁾」(以下、jReadability)によるものである。

課題遂行型教材「JFS 読解活動集」の開発と評価

表5 教材ごとの読解素材のテキストタイプ、文章の長さ、難易度 (A1)

No	A1シリーズ タイトル	テキストタイプ		文章の長さ		難易度
			Written Sources	合計	内訳	
1	営業時間や休業日を読み取る	表示・お知らせ(営業日定休日1点、休業のお知らせ3点)	1 看板・標識	227	96 131	中級前半 4.21
2	メニューを読む	メニュー(2点)	7 メニュー	256	80 176	中級前半 4.4
3	同僚の予定を読み取る	予定表(2点)	19 事実に基づく記述	138	105 33	中級前半 3.59
4	ビルのテナント案内板から行き先を見つける	看板(3点)	1 看板・標識	319	85 121 113	初級前半 6.26
5	よく見る看板や表示を推測して理解する	標識(漢字)	1 看板・標識	126		初級後半 5.45
6	旅先からのメールやハガキを読む	SNS、絵はがき、メッセージ(4点)	31 ショートメール/ 30 ツイッター ポストカードのメッセージ	380	85 88 127 80	初級前半 6.42
7	催し物のポスターから情報を読み取る	ポスター(5点)	8 地図、観光リーフレット&ポスター	447	81 91 60 121 94	中級後半 3.14
8	カードのメッセージを読み取る	年賀状、お祝いカード(例示+4点)	30 ポストカードのメッセージ	445	99 119 101 47 79	中級前半 3.56
9	レシビから材料を読み取る	レシビ(3点)	19 事実に基づく記述	404	111 184 109	初級後半 4.62
10	値段を読み取る	看板・メニュー	1 看板・標識 7 メニュー	380	44 97 118 121	中級後半 2.6
11	パーティーや催しの日時、場所などを読み取る	パーティー、イベントのお知らせ(2点)	8 地図、観光リーフレット&ポスター	447	170 277	初級後半 4.56
12	出発時刻や座席番号を読み取る	切符、標識(5点)	1 看板・標識	271	52 66 54 56 43	中級後半 3.05
13	SNSを読む	SNS(8点)	30 ポストカードのメッセージ	417	63 65 54 54 89 35 25 32	初級前半 5.6
14	職場のメモを読む	指示メモ、伝言メモ(6点)	19 事実に基づく記述 15 書式、請求書	276	37 63 52 38 42 44	初級前半 5.82

A1シリーズで用いる読解素材は、個々の素材の文字数は25から277の開きがあるが、教材ごとの平均は300字超である。注目すべきはjReadabilityによる難易度で、A1レベルの読解であっても、テキスト自体は初級前半から中級後半までの広範囲にわたるレベルの素材を用いていることで、実に半数の読解素材が中級以上と判定されている。これらのテキストタイプを見ると、営業時間や定休日の表示やお知らせ、メニュー、職場の行動予定表、地域のイベントポスター、お祝いカードなどの定型文、値段や値札の表示、鉄道の切符や飛行機の搭乗券といった、現実社会におけるリアルなものであることがわかる。これは、「3. 教材の方針と概要」でも述べた

ように課題遂行の観点から敢えて重視した点であり、読解活動に用いるテキスト自体は難しいものであっても、学習者に求めるタスクの難易度を調整することによって、課題の達成のために必要な読みの活動に学習者が取り組めることを目指したからである。実際、中級後半に判別されている「7. 催し物のポスター」「10. 値段」「12. 出発時刻や座席番号」では、Can-do カテゴリー「必要な情報を探し出す」に基づき、日付、場所、漢数字、時間、座席番号など、ごく基本的な情報を探し出す活動のみを行う。

表6 教材ごとの読解素材のテキストタイプ、文章の長さ、難易度 (A2)

No	A2シリーズ タイトル	テキストタイプ		文章の長さ		難易度
			Written Sources	合計	内訳	
1	お茶やインスタント食品の作り方を 読む	食品パッケージ(6点)	3 13	取扱説明書 パンフレットとチラシ	485 89 64 89 49 149 45	中級後半 3.18
2	旅行先からのメールやSNSを読む	SNS、メール(3点)	31	ショートメール/ ツイッター	596 137 144 315	初級前半 5.74
3	和食のメニューを読む	メニュー(2点)	7	メニュー	348 213 135	中級後半 2.77
4	ニュースレターなどの記事を読む	フリーペーパーのイ ベント紹介記事	19	事実に基づく記述	595 217 269 109	初級後半 4.74
5	旅行のパンフレットを読む	観光パンフレット(2点)	8	地図、観光リーフ レット&ポスター	381 153 228	中級前半 3.51
6	クーポンの情報を読み取る	クーポン(3点)	13	パンフレットとチラ シ	664 115 223 326	上級前半 1.86
7	求人広告を読む	求人広告(4点)	9	広告	847 202 246 187 212	中級前半 3.92
8	公園の案内板を読む	注意書き、看板(例示 +3点)	1	看板・標識	467 94 123 132 118	中級前半 4.42
9	薬の袋やパッケージを読む	薬のパッケージ、薬袋、 説明書 (例示+3点)	3 13	取扱説明書 パンフレットとチラ シ	470 148 95 72 155	中級後半 3.25
10	四コマ漫画を読む	四コマ漫画(3点)	26 27	物語 逸話、ジョーク	246 134 76 36	初級前半 6.15
11	待ち合わせに遅れることを知らせる メッセージを読む	メール(例示+1点)	31	ショートメール/ ツイッター	448 207 241	初級前半 5.62
12	ブログを読む	ブログ(5点)	33	私的な叙述	1424 229 294 314 274 313	初級後半 5.39

A2シリーズでは、各教材で扱う文字数は平均して500字超である。A1シリーズと同じく半数が中級以上と判別された読解素材であるが、それらは食品パッケージ、和食のメニュー、観光パンフレット、クーポン、求人広告、公園の注意書き、薬袋や処方箋の説明といった現実社会にあるリアルな素材である。一方で、A2レベルになると Core Inventory における「31. ショートメール／ツイッター」「33. 私的な叙述 (ここではブログ)」といったある一定の長さのテキストが扱われるようになり、全体の大意をとる読みに挑戦する。これらの素材を用いた教材(「2. 旅行先からのメールや SNS を読む」「11. 待ち合わせに遅れることを知らせるメッセー

課題遂行型教材「JFS 読解活動集」の開発と評価

ジを読む」[12. ブログを読む]) は、読解素材の難易度自体は初級前半か後半のもので、個々の文章の長さは平均して250字前後となる。

表7 教材ごとの読解素材のテキストタイプ、文章の長さ、難易度 (B1)

No	B1シリーズ タイトル	テキストタイプ		文章の長さ		難易度
			Written Sources	合計	内訳	
1	クローゼットの整理収納についてのブログを読む	ブログ	33 私的な叙述	1171	/	中級前半 3.52
2	フリーペーパーのお店紹介の記事を読む	フリーペーパーのお店紹介(4点)	13 パンフレットとチラシ	1517	380 404 385 348	中級前半 4.45
3	ユーザーレビューを参考に商品を選ぶ	商品情報(4点)	12 カタログ	1102	237 232 304 329	初級後半 4.55
		ユーザーレビュー(4点×各3件)	19 事実に基づく記述 33 私的な叙述	1962	588 536 446 392	初級後半 4.66
4	悩み相談サイトに投稿された相談とそれに対するアドバイスを読む	悩み相談サイトへの投稿&返信アドバイス(4件)	32 文書のやりとり: 非公式な文書	355	/	中級前半 3.67
				1256	339 320 280 317	中級前半 3.79
5	ペットについての記事を読む	動物愛護センターの広報記事	21 事実に基づく文章、記事、レポート	841	/	中級後半 3.49
6	ペットの気持ちを書いた詩を読む	犬の気持ちを書いた詩、飼い主の回想	33 私的な叙述	792	/	中級前半 3.98
				542	/	中級前半 4.16
7	留学についての相談のメールを読む	友人への相談メール、返信メール	32 文書のやりとり: 非公式な文書	611	/	中級前半 3.94
				778	/	中級前半 3.62
8	観光地に暮らす人々の考えを書いた文章を読む	ウェブサイト	21 事実に基づく文章、記事、レポート	911	/	中級前半 3.95
9	東京五輪について書かれた文章を読む	ウェブサイト	21 事実に基づく文章、記事、レポート	1227	/	中級後半 3.26
10	エコについて書かれたパンフレットを読む	パンフレット	13 パンフレットとチラシ	1060	/	中級前半 3.61
11	AIの可能性について書かれた雑誌記事を読む	雑誌記事	20 新聞&雑誌記事	1043	/	中級後半 3.35
12	キャッシュレス決済について書かれた新聞記事を読む	新聞記事	20 新聞&雑誌記事	1462	/	中級後半 3.07

B1シリーズでは、テキストタイプが「20. 新聞&雑誌記事」「21. 事実に基づく文章、記事、レポート」「33. 私的な叙述」といったある一定の長さを持ったテキストが中心になること、そして1つあたりの文章の長さが1,000字超になることが特徴的である。難易度は、ほとんどが中級前半から後半に判別されているが、唯一初級後半に判別された「3. ユーザーレビューを参考に商品を選ぶ」であっても、4点の商品情報および1点につき3件のユーザーレビューというトータルで3000字超の長文を読み総合的な判断を行うという、複合的な読みを求めるものである。また、「4. 悩み相談サイトに投稿された相談とアドバイス」「7. 留学についての相談メール」のように、Core Inventoryで「32. 文書のやりとり：非公式な文書」とされる書きこばによるやりとりを読み解く活動や、中級後半に判別された「5. ペットについての記事

読む」[9. 東京五輪について書かれた文章を読む]「11. AIの可能性について書かれた雑誌記事を読む」[12. キャッシュレス決済について書かれた新聞記事を読む]など、記事を用いて主要な情報や筆者の主張を理解する活動が設定されていることが、B1シリーズの特色である。

6. ユーザーによる評価

本章では、教材サイトのアクセスログとユーザーアンケートや教材自体に寄せられたコメントから、ユーザーによる評価について考察する。

6.1 アクセスログによる評価

A1シリーズからB1シリーズにかけての読解教材のサイト公開日およびシリーズごとの総ページビュー（以下、PV）数⁽¹³⁾と1日あたりのPV数は、表8のとおりである。

当然のことながら、総PV数は公開の早い順に多いが、注目すべきは1日あたりのPV数で、B1シリーズのPV

表8 シリーズごとの総PV数と1日あたりのPV数

	公開日	総PV数	PV/日
A1シリーズ	2015/12/2～2017/4/17	22,704	1.08
A2シリーズ	2017/5/18～2018/9/20	19,064	1.85
B1シリーズ	2018/10/22～2020/6/26	15,826	7.37

が抜きんで多いことである。これは、B1シリーズの公開日が本稿執筆時から近いこと、教材サイトにおいては「新着素材」へのアクセスが通常的に多いことが影響している可能性もあるが、多くの教育現場で本格的な読解活動が求められてくるのがBレベル以降で、素材としての需要が高いということも考えられる。一方、A1シリーズにおいては、読解素材がレアであったり限りなくそれに近い素材であったりすることから、現場では使いにくさを感じられているかもしれない。「4.2 原稿作成」において、課題遂行型の読解活動ではすべてを読んで理解する必要はなく、必要な部分だけを理解できればいいこと、時には必要のない部分は読み飛ばすことも肝要と記したが、A1では学習事項が多く、課題遂行型の読解を取り入れる時間的余裕のない場合が多いことや、A1レベルの学習者にレアに挑戦させることに対する戸惑いが教師自身にあるのかもしれない。

6.2 ユーザーコメントによる評価

教材サイトには、ユーザーが素材に直接コメントをつける機能があるが、「JFS 読解活動集」には、以下のようなコメントがつけられている。

- ・素材を自由に切り貼りしてもいい点がうれしい (A1「6. 旅先からのメールやハガキ」)
- ・ユニークな教材で、楽しく勉強できそう (A2「10. 四コマ漫画」)
- ・「読む前に」で、話が盛り上がりそう (A2「11. 待ち合わせに遅れるメッセージ」)
- ・教材をそのまますぐ授業に使える (B1「9. 東京五輪」)

・準備から評価まで丁寧に流れが組み立ててあり、役に立った (B1 「11. AI の可能性」)

また、毎年1回実施しているユーザーアンケートにおいても、読解については「読解の教材としてとてもよく整っている」「レベルごとの読解教材も大変助かっている」「著作権の問題などにより、読解は公開されているものがあると助かる」といった意見が寄せられている。これらのコメントから、制作方針や作成上の留意点である学習の流れや活動のねらい等の明記や、切り貼りしてもそのままでも自由に使える点などが、肯定的に受け止められていることがわかる。また、教材の試用に協力した中等教育段階で教える研修参加者からは「国の教育方針として課題遂行型の日本語授業が求められているため、レベルのついた課題遂行型の教材を提供してくれて非常に助かる」といったコメントも聞かれた。教材サイトのコメントには他にも、「導入のイラストがわかりやすく、会話が広がりました。自分の仕事を将来 AI に任せられるかも考えてもらい盛り上がりました。このような新しい情報の教材を定期的に提供して欲しいです」など、実際に授業で使ってみた際の学習者の様子や、リアルな日本を伝える新しい教材を求める意見も寄せられている。今後、制作教材の方向性を検討していく上で、これらのフィードバックをぜひ参考にしていきたい。

7. おわりに

以上、教材サイトで公開している「JFS 読解活動集」の開発および教材の特徴とユーザー評価について述べた。本教材には延べ30名以上の日本語国際センター専任講師が関わったことにより、それぞれの個性あふれるテイストの異なる活動集が完成した。ユーザーのコメントからも、教材サイトで広く提供される教材として、多様な現場で教える教師の多様なニーズに応えるものになり得たと自負している。そして、この教材制作にあたって得られた何よりの成果として、ピア執筆による協働が挙げられる。個々の制作過程では、講師それぞれが JFS をどのように理解しているか、「読める」という能力をどのように考えているか、また、読解素材としてのリアルさの追求と教材としての使いやすさのジレンマをどのように解消するかなど、さまざまな観点からの議論が重ねられた。率直な意見交換のできた制作過程は、ベテラン講師にとっても若手講師にとっても、新たな視点を獲得する契機となった。これは、教材を制作するための枠組みとして、JFS が「[内省]と[対話]のツール」(国際交流基金 2009: 21)の機能をうまく果たした好例と言えるだろう。この制作過程が、多くの現場で教材開発の参考になれば幸いである。

今後も、この読解教材を多くの教師に現場で使ってもらうため、さらなる広報に努めると共に、ユーザーである世界中の日本語教師のニーズやリクエストを正確に把握し、言語学習の新しい潮流に適う教材を提供していきたい。

〔注〕

- (1) JFS はコミュニケーションの捉え方と言語の熟達度を、CEFR と同じ枠組みで提示し、諸外国の言語ともレベル尺度やコミュニケーションの捉え方を共有する (国際交流基金 2017)。
- (2) 2020年8月現在、延べ登録ユーザー数は193か国・地域、135,730名。直近10年の年間平均PV数は2,623,809。
- (3) JFS で提供する Can-do には、493個の CEFR Can-do と552個の JF Can-do がある。CEFR Can-do は CEFR が提供する汎言語的な記述の Can-do で、抽象性や包括性が高い。JF Can-do は国際交流基金が独自に作成した Can-do で、日本語のコミュニケーション言語活動を例示したもの (国際交流基金 2017: 19)。
- (4) 「MY Can-do」とは、JF Can-do や CEFR Can-do を参考に、各教育現場に合わせて作成する Can-do のこと。すでにある Can-do は網羅的なものではないため、JFS は自分の現場に合った Can-do を作ることを提案している (国際交流基金 2017: 18)。
- (5) 「ピア執筆者」は、教材作成の過程で、教材利用者もしくは一教師としての目で教材を見て、感想や助言を述べたり、アイデアを提供したりする役割を担った。
- (6) 各シリーズの執筆者および編集担当者は、以下の日本語国際センター専任講師 (執筆当時)。執筆者は50音順、編集担当者は担当順で記す。
 A1 磯村一弘、上原由美子、尾関史、高偉建、佐藤智照、二瓶知子、藤長かおる、山本実佳、横山紀子
 A2 伊藤由希子、上原由美子、大船ちさと、篠崎拱子、中尾有岐、二瓶知子、濱田典子、山本実佳
 B1 有馬淳一、石山友之、上原由美子、押尾和美、来嶋洋美、木谷直之、木村亮子、柴原智代、羽吹幸、山下悠貴乃、山本実佳
 編集担当者 横山紀子、夷石寿賀子、上原由美子、長坂水晶、伊藤由希子、羽吹幸
- (7) JFS では、言語活動を例示する Can-do は CEFR に準じて「受容」「産出」「やりとり」に分類されており、それぞれがより詳しいカテゴリーに分類されている。「読むこと」に関するカテゴリーは、「読むこと全般」「手紙やメールを読む」「必要な情報を探し出す」「情報や要点を読み取る」「説明を読む」の5つ。また、日本語のコミュニケーション言語活動の例を示した JF Can-do には、それぞれトピックがついており、言語活動の場面や内容が、よりイメージしやすくなっている。
- (8) Core Inventory とは、CEFR のレベル別に英語の特徴を記述したもので、CEFR に基づいて教える教師が、各レベルで、何をどのように教えるべきなのか、サポートすることを目的に開発されたものである (根岸 2012)。
- (9) テキストタイプとは、文章や談話の種類のことである。
- (10) 日本語国際センターでは、海外の教育機関で日本語を教える現職教師に対する教師研修を実施している。平成元年の開所以来の30年間で、約120か国・地域から12,000名近くの研修参加者が来日している。
- (11) 1~33の Written Sources は執筆者私訳。
- (12) jReadability ではリーダビリティ公式を用いて、文章の読みやすさを6レベルに自動判別する。
- (13) 総PV数は、公開日から2020年7月31日現在までのもの。

〔参考文献〕

- 赤澤幸・高野千恵子・磯村一弘・三原龍志 (2009) 「日本語教師のための素材提供型サイト「みんなの教材サイト」の運用と再構築」『国際交流基金日本語教育紀要』5、119-134
- 伊藤由希子・長坂水晶・上原由美子 (2019) 「教師支援サイトの再構築—「JF 日本語教育スタンダードサイト」「みんなの Can-do サイト」「みんなの教材サイト」連携の試み—」『国際交流基金日本語教育紀要』15、91-101
- 国際交流基金 (2009) 『JF 日本語教育スタンダード 試行版』、国際交流基金
- 国際交流基金 (2013) 『まるごと 日本のことばと文化』(入門 A1)、三修社
- 国際交流基金 (2017) 『JF 日本語教育スタンダード【新版】利用者のためのガイドブック』、国際交流基金
- 島田徳子・古川嘉子・麦谷真理子 (2003) 「インターネットを利用した日本語教師に対する教材制作支援—「みんなの教材サイト」<http://www.jpfi.go.jp/kyozai/>の構築と運用—」『日本語国際センター紀要』13、

課題遂行型教材「JFS 読解活動集」の開発と評価

1-18

根岸雅史 (2012) 「英語の CEFR 参照レベル記述のための2つのアプローチ：Core Inventory と English Profile Programme」 富盛伸夫 『平成21-23年度 科学研究費補助金研究 基盤研究 (B) 研究プロジェクト報告書「EU および日本の高等教育における外国語教育政策と言語能力評価システムの総合的研究」』 23-30

Council of Europe (2008) 『外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠』 初版第2刷 吉島 茂・大橋理枝 (訳、編)、朝日出版社

North B., Ortega A.& Sheehan S. (2015) *A Core Inventory for General English 2nd Edition*. British Council / EAQUALS. <<https://www.teachingenglish.org.uk/sites/teacheng/files/pub-british-council-eaquals-core-inventoryv2.pdf>> (2020年8月31日)